高山植物を求めて利尻島･礼文島の旅

はじめに

40 代前半、工場建設(前橋市内)で単身赴任していた時、週末になると白根山、男体山、尾瀬沼、赤城山、榛名山へ山野草を撮りに出掛けていた。当時は、野花が採取できていたから、花の写真と飼育を通し、60 歳に仮称『足で出会った高山植物』の発刊を計画していたが、軽い狭心症を患い、山登りとゴルフを断念した。

その後、手軽に入手可能な山野草で楽しんでいたが、昨年軽井沢で自称『ミニ植物園』を造り、約 400 種の宿根草を育てている。このミニ植物園の宿根草を、３､４年掛けて３分の１珍しい花と入れ替えたく、初年度は専門家と入手困難で且つ育てにくい高山植物を土質改良しながら、20 種程植え込んだ。

高山植物を育てるには、高山植物が生存している環境調査が重要である。高山に登れなくなった現在、書籍に頼れば時間が掛かる。そこで、長年描いていた平地でありながら、高山植物が観られる利尻島と礼文島に高山植物を求めて島めぐりを試みた。

旅の行程

6/30：羽田空港ＮＨ61→新千歳空港(乗り継ぎ) ＮＨ4929→利尻空港→バス→利尻島/神秘の姫沼、仙法志御崎公園、オクトマリ沼→利尻温泉(泊)。

7/1： 利尻島→フェリー(600 人乗船)礼文島→バス→澄海岬、スコトン岬、桃岩展望台をウォーキングで高山植物を観察→礼文温泉(泊)。

7/2： 礼文島→フェリー(600 人乗船)稚内→バスで北防波堤ドーム→宗谷岬→稚内空港ＮＨ574→羽田空港。

利尻島

日本海にポッカリ浮かぶ利尻山、標高 1721ｍで万年雪が見られ登山が出来る高山植物の宝庫。ここには、エド松、トド松など原生林に囲まれた神秘的な周囲 800ｍの姫沼があり、天気が良い時に水面に利尻山の姿が逆さ富士を写し出す。島には、コマドリ、ノゴマ、アカゲラなど 300 種の野鳥が生存している。
天麩羅に絶品であるコシアブラの大木が群生していたが、国立公園故に採取出来ないのが心残りだ。

万年雪の利尻山

姫沼に写る逆さ富士

オタトマリ沼

今は、オタトマリ沼(周囲 1.5ｋｍ)周辺にエゾカンゾウが見どころで、マイズルソウは咲き終わっていた。
海岸線の痩地に可憐なリシリヒナゲシが目を引いた。
利尻山に登山しなかったので、　目的の高山植物と対面出来ず期待外れだった。

しかし、北海道は魚介類が宝庫だけに、とろける様な食感の天然ウニ、甘く柔らかいボタンエビ、プチプチしたイクラ､サーモンをはじめ家族がホッケを好むから良く食べていたが､現地のホッケ焼きは格別美味しかった。併せて、利尻昆布は有名で、家内のお土産品を早くから買い込み嵩張る荷物となってしまった。

エゾカンゾウ

リシリヒナゲシ

昼食の船盛料理

礼文島

普通、高山植物を観るには、2000～3000ｍ級の高山に登らないと出会わない。しかし、南北 27ｋｍの礼文島は、海抜ゼロｍで楽しむことが出来る。

代表的な高山植物は、同島の固有種である特定国内希少生動物種のレブンアツモリソウが有名である。現在、レブンアツモリソウは、約１万株群生しており約 3000 株が咲いている。続いて、気高さと可憐さを持つレブンウスユキソウ(同種より背丈が高いエーデルワイスに似ている)、マメ科のレブンソウが代表的である。

レブンアツモリソウ

レブンウスユキソウ

レブンソウ

内地で観るコザクラはピンクの花を咲かせるが、レブンコザクラは咲き終わっていたとはいえ、写真で見ると赤紫で、澄み切った空気が実証していた。

起伏の少ないハイキングコースには、エゾカンゾウ、オオバナウド、レブンシオガマが見どころであった。続いて、センダイハギ、ミヤマオダマキ、レブンキンバイ、ネムロシオガマ、クロユリ、イブキトラノオ、ミヤマキンポウゲ、オオヤマフスマ、オオタカネバラ(ハマナスに似ている)、チシマフウロ、ヨツバシオガマ、大好きなハクサンチドリ(従来種より色が濃い)、他、名前の分らない花達が我よ我よと１年で最高の花を咲かせている。平地で、これだけ多くの高山植物が観られたこと、30 種類の花が撮れたこと最高の旅になった。

エゾカンゾウの群落

オオバナウドの群生

レブンシオガマ

センダイハギ

ミヤマオダマキ

レブンキンバイ

ネムロシオガマ

クロユリ

イブキトラノオ

ミヤマキンポウゲ

オオヤマフスマの群生

オオタカネバラ

チシマフウロ

ヨツバシオガマ

ハクサンチドリ

ハマエンドウ

未知の花１

未知の花２

この他のスポットは、澄海岬から桃岩、猫岩を見下ろす雄大な海岸美は霧に覆われ足元しか見えなかったのが残念だった。また、浮島のスコトン岬も濃霧で遠方が見えなかったが、トド島のアザラシをかろうじてシャッターに収めることが出来た。海岸線をバスで観光していると、日本海を隔てて利尻山が濃霧の向こうに薄らと浮かび上がっていた。

澄海岬からの海岸

スコトン岬から見たアザラシ

海岸線からの利尻山

宗谷岬

最終日は、礼文島から稚内に向けて 600 乗りのフェリーで約２時間要した。東北大震災の津波が問題視されているが、稚内の海岸線に高さ 13m×長さ 470mの防波堤は壮大だった。

続いて、日本最北端の宗谷岬に立ち、北方領土を見たが濃霧で見ることが出来なかった。宗谷岬は、世界地図に田宮海峡として日本人の名前が記されている田宮林蔵像(遠く北方領土、間宮海峡、サハリン海峡を見つめる)で領土問題がクローズアップされている時だけに、心にズシーンとくるものを感じた。

北防波堤ドーム

宗谷岬

間宮林蔵の像

PS1:クロアチアの旅は、世界各国を旅したベテランの単独旅行者で占められていたが、今回は 46 名中、半分が夫婦連れで、残りは女性の姉妹と友達だった。単独旅行者は、２、３名と少なかった。そして、参加者は熟年で若い OL は居なかった。

PS2:クロアチアで、ニコン D70 が電波障害を受け全画像が消去され、クロアチア紀行文の作成に苦労した。その苦い体験から、今回新たにニコン D5100 に合わせて、マクロ、望遠、広角レンズを新調した。特に、礼文島は国立公園であるから歩道以外立ち入り禁止故に、遠くの花の撮影には望遠(55～300 ㎜)レンズが大きな力を発揮してくれた。これからは、花を中心に幼年期野鳥を飼っていたので、望遠レンズを駆使した野鳥の撮影にも時間を割きたい。

以　上

2011 年７月７日　横林寛昉